

<令和7年度 運営推進会議における評価>

【事業所概要】

法人名	一般社団法人 横浜市都筑区医師会	事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム
所在地	(〒 224 -0015) 横浜市都筑区牛久保西 1-20-21		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

<p>《当事業所のケアの理念》 利用者・ご家族の幸せの実現のために『その人の「生きる」を支える』 ～寄り添い・理解し・尊重する～」を目指しています。</p> <p>《特色》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平均要介護度 4.0 経管栄養注入や喀痰吸引など医療機器を使用している方、がんや非がんのターミナル期の看取りなど、医療ニーズの高い利用者を受け入れます。</li> <li>・介護と看護の連携を高めて、自立した専門職の育成を目指しています。</li> </ul>
---

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2025 年 12 月 22 日	従業者等自己評価 実施人数	( 28 ) 人	※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2026 年 3 月 13 日	出席人数 (合計)	( 12 ) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 ( 7 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 ( 1 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 ( 1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 ( 1 人) <input type="checkbox"/> 利用者 ( 0 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 ( 0 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 ( 2 人) <input type="checkbox"/> その他 ( 0 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<p><u>3.について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム内のコミュニケーション強化⇒事例検討会の充実</li> <li>・各スタッフのキャリアパスの明確化/再設定</li> <li>・看多機の特徴を活かした育成⇒地域の医療機関や行政と連携し、職員が地域包括ケアの担い手として成長できる機会を提供（各連絡会などへの参加）</li> </ul> <p><u>8.について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録の徹底と迅速な情報共有 ⇒スタッフ間の情報共有ツールの利用</li> </ul> <p><u>9.について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療・ケア事故の予防・対策の理解を深める ⇒リスクマネジメントセミナーへの参加(内部/オンライン) ⇒安全ルールの理解を深めるための研修開催</li> <li>・車両事故防止のための安全運転教育の実施</li> </ul> <p><u>10.について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・BCP についての研修及び訓練の定期的</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション研修の実施(2回)</li> <li>・看護職・介護職・介護支援専門員による定期的なカンファレンスや申し送りを実施し、利用者の状態やケア方針について情報共有を行っている。</li> <li>・法人内外の研修への参加機会を確保。また社外研修への声掛け・促しも実施</li> <li>・運営推進会議で得られた意見や助言については、書面等を通じて職員へ共有している。</li> <li>・利用者情報については、申し送りノートや各種記録、水分表等を活用し、随時更新・共有を行っている。</li> <li>・事故防止や感染対策、災害時対応について、マニュアル整備や日常業務中での注意喚起を行っている。</li> <li>・BCP についての研修・訓練消防訓練を実施。新たに大雨時の対策についての対策を検討し「大雨による警戒レベルが発令された時の対応マニュアル」の策定、職員に周知した。</li> </ul>	<p><b>1. チーム体制と情報共有の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>強固な連携体制の構築:</b> 看護師による的確な指示のもと、介護職が安心して業務にあたる「理想的なチームワーク」が築かれています。</li> <li>● <b>情報共有の基盤:</b> 定期的なカンファレンスが、スタッフ間の情報共有における確固たる基盤として機能しており、大きな強みとなっています。</li> <li>● <b>組織の一体感:</b> 外部委員より、良好なチームワークが構築できているとの評価を得ています。</li> </ul> <p><b>2. リスクマネジメントと安全対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>事故防止への取り組み:</b> インシデント・アクシデントの共有や対応策の実施など、安全管理に対して真摯に取り組んでいます。</li> <li>● <b>防災体制の強化:</b> 「大雨対応マニュアル」を新たに策定しました。特に、不安を感じやすい夜</li> </ul>

		実施、内容の再検討。		<p>勤スタッフに寄り添った周知徹底の姿勢が評価されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>継続的な改善:</b> 現場の課題に対して、着実に改善に向けた取り組みが進められています。</li> </ul> <p><b>3. 今後の課題と具体的な対策案</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>理念・目標の浸透:</b> 理念や目標を全スタッフへ浸透させることに課題を感じていますが、その解決策として具体的な取組案が示されています。</li> <li>● <b>視覚的な工夫による教育:</b> 新任職員や夜勤スタッフでも一目でポイントが理解できるよう、簡潔な資料や掲示物を活用する方針です。この取り組みは、現場の負担を抑えつつ有効な手段であると期待されています。</li> </ul>
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<p><u>11,12,13</u> について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各職員のアセスメント力の強化⇒アセスメントについての勉強会やオンライン研修等の活用、助言、指導</li> </ul> <p><u>19,20,21</u> について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 多職種での情報共有の強化 ⇒電子カルテへの記入の徹底、各職員への助言、指導 ⇒記録の具体例を共有し、質の向上を図</li> </ul>	<p>□利用者および家族を含めた 24 時間の生活全体を意識し、介護職・看護職それぞれの視点からアセスメントを実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 定期的なカンファレンスを通じて、アセスメント結果や状態変化、目標の達成状況について多職種で共有している。</li> </ul>	<p><b>1. 専門的なケアの実践と地域への貢献</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>医療・終末期ニーズへの積極的対応:</b> 医療依存度が高い利用者や終末期の方を積極的に受け入れ、地域住民が最期まで安心して暮らせるための「大きな柱」としての役割を果たしています。</li> </ul>

		る	<p>□利用者の尊厳や残存能力を重視し、心身機能の維持・回復、生活機能の維持向上を意識した支援を行っている。</p> <p>・終末期支援や看取り支援においては、利用者本人・家族の意向を確認しながら、看護職を中心に丁寧な説明と記録を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>心理的サポートの充実:</b> 単なる医療処置だけでなく、利用者本人および家族の心情に深く寄り添ったケアが実践されており、高い満足度と信頼に繋がっています。</li> </ul>
2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<u>31.について</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議等における事例紹介/検討の継続</li> </ul>	<p>□病院や施設、主治医等と連携し、退院・退所前カンファレンスや情報共有を通じて、在宅生活への円滑な移行を支援している。</p> <p>・利用者の急変時や緊急時に備え、主治医等と対応方針を事前に共有している。</p> <p>・地域の医療機関と連携し、夜間・休日を含めた対応体制を整えている。</p> <p>・運営推進会議や(看)小多機能連絡会において、多職種と利用者支援について意見交換を行っている。</p>	<p><b>2. 看多機</b>の特性を活かした質の高いアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>24時間の生活視点:</b> 「通い・泊まり・訪問」を組み合わせる看多機の強みを活かし、24時間の生活全体を俯瞰したアセスメントが実施されています。</li> <li>● <b>多職種連携の深化:</b> アセスメント結果を看護・介護等の多職種でタイムリーに共有する仕組みが整っており、これがサービス全体の質の向上に直結しています。</li> </ul>
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	<u>33.について</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民への情報発信⇒住民向け説明会などの開催</li> <li>・医療/介護関係者との連携強化⇒事例共有会への参加継続、医療機関/地域包括支援センター/訪問看護ステーション/ケア</li> </ul>	<p>□運営推進会議を通じて、地域関係者と事業所の取り組みについて共有している。</p> <p>・医療ニーズの高い利用者、たん吸引・人工呼吸器・看取り支援が必要な利用者</p>	<p><b>3. 運営体制とコミュニケーションの現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>確実な情報共有:</b> 現場スタッフ間での情報共有が円滑に行われており、前回評価から引き続</li> </ul>

		マネとの連携強化	の受け入れ体制を整え、積極的に対応している。	<p>き、組織的な連携の強さが維持されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>安定した事業運営:</b> 外部委員より「問題なく、良く運営されている」との総評を得ており、サービスの質・量ともに安定した提供体制が構築されています</li> </ul>
III. 結果評価 (評価項目 42~44)	<p><u>43 について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スタッフの知識・スキルの強化</li> </ul> <p>⇒医療的ケアや緊急時対応の研修の実施、連携体制の強化、傾聴の実施、振り返りの実施</p> <p><u>44 について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スタッフの知識・スキルの強化</li> </ul> <p>⇒終末期の看護/介護スキルの向上、家族支援のスキル向上のためのコミュニケーション力を身につけるための研修の実施。</p>	<p>□利用者ごとに計画目標を設定し、多職種で連携しながらサービス提供を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療が必要な状況下においても、在宅療養生活が継続できるよう支援している。</li> <li>・ 在宅での看取りを希望する利用者・家族に対して、安心して看取りが行えるよう支援体制を整えている</li> </ul>	<p><b>1. 地域における存在意義と信頼の構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>在宅生活継続への貢献:</b> 「皆様がいるからこそ在宅生活を継続できる」との評価をいただき、利用者が住み慣れた地域で暮らし続けるための不可欠な支えとなっています。</li> <li>● <b>高い信頼感の醸成:</b> 利用者および家族から「ここなら最期まで安心」という確固たる信頼を得ており、事業所の姿勢が地域に深く浸透しています。</li> </ul> <p><b>2. 事業運営の安定性と継続性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>着実な運営体制:</b> 外部委員より「よくできている」「良く運営されている」との総評を得ており、日々のサービス提供が安定した水準で継続されています。</li> </ul>	

			<p><b>3. 専門性の強化と質の均一化（改善計画の進捗）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>強みの明確化:</b> 終末期支援（ターミナルケア）を自所の重要な強みとして再認識し、組織として注力する姿勢が評価されています。</li> <li>● <b>経験の共有とボトムアップ:</b> 個々のスタッフが持つ終末期支援の経験を組織全体で共有し、サービスの質を均一化させようとする改善計画が具体化しています。この取り組みは、さらなるケアの質向上に向けた「非常に心強い歩み」として期待されています。</li> </ul>
--	--	--	--

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<p><b>強固な連携体制の構築:</b> 看護師の的確な指示のもと、多職種が安心して業務に当たれる「理想的なチームワーク」が築かれていると外部委員より高い評価を得ています。</p> <p><b>情報共有の基盤確立:</b> 定期的なカンファレンスや申し送り、各種記録ツールの活用により、利用者の状態やケア方針がスタッフ間で確実に共有されています。</p> <p><b>防災・安全体制の強化:</b> 「大雨対応マニュアル」の策定や訓練</p>	<p><b>理念・目標の浸透:</b> 事業所の理念や目標を全スタッフへさらに深く浸透させるための機会を設けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 全体研修、運営会議等の中で、理念・事業所目標をテーマにした振り返りの時間を設ける</li> <li>➤ 日々のケアや事例を理念と結び付けて共有し、「理念がケアにどう生かされているか」を話し合う機会を作る。</li> </ul> <p><b>視覚的な教育ツールの活用:</b> 新任職員や夜勤スタッフが短時間</p>

		の実施など、リスクマネジメントに真摯に取り組んでおり、特に夜勤スタッフへの配慮が評価されています。	でポイントを理解できるよう、簡潔な資料や掲示物を作成し、現場の負担を抑えつつ教育の質を向上させます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ セミナー、オンライン研修への参加</li> <li>➤ 事例検討の充実</li> </ul>
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<b>専門的なケアの実践:</b> 医療依存度が高い利用者や終末期の方を積極的に受け入れ、地域住民が最期まで暮らすための「大きな柱」としての役割を果たしています。	<b>アセスメント力の継続的強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ オンライン研修や事例検討会を継続</li> <li>➤ アセスメントスキルと記録の勉強会の実施</li> </ul>
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<b>24時間の生活視点によるアセスメント:</b> 「通い・泊まり・訪問」を組み合わせる看多機の強みを活かし、多職種連携による24時間の生活全体を俯瞰したアセスメントが実施されています	<b>スマイルウェブへの入力への徹底と事例の共有</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ アセスメント結果をタイムリーに反映させるため、スマイルウェブへの入力への徹底。</li> <li>➤ 質の高い記録の具体例をチーム内で共有し、記述の具体性を高める。</li> </ul> <b>看護・介護の相互フィードバック強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 24時間の生活視点をより深めるため、看護職・介護職それぞれの視点から得た気づきに対し、カンファレンス等を通じて相互に助言・指導を行う機会を増やす。</li> </ul>
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	<b>心理的サポートの充実:</b> 医療処置に留まらず、利用者本人および家族の心情に寄り添った丁寧な説明とケアが、高い満足度と信頼に繋がっています。	<b>対話スキルの向上研修</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 利用者や家族の潜在的な不安や希望を汲み取るため、積極的傾聴を中心としたコミュニケーション研修の実施。</li> </ul> <b>多職種カンファレンスの活用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 看護職・介護職それぞれの視点から見えたご家族の心情を共有し、チームとして一貫した心理的サポートができる体制を整える。</li> </ul>
III. 結果評価 (評価項目 42～44)		<b>地域における存在意義の確立:</b> 「皆様がいるからこそ在宅生活を継続できる」という評価をいただくなど、地域生活を支える	<b>地域連携の深化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 運営推進会議や連絡会を通じ、地域の医療機関や行政、介</li> </ul>

	<p>不可欠な存在となっています。</p> <p><b>高い信頼感の醸成:</b> 利用者・家族から「ここなら最期まで安心」という確固たる信頼を得ており、看取り支援体制が地域に深く浸透しています。</p> <p><b>安定した事業運営:</b> 外部委員より「良く運営されている」との総評を得ており、サービスの質・量ともに安定した提供体制が構築されています。</p>	<p>関係者との情報共有・事例共有をさらに推進し、円滑な在宅移行支援を強化する。</p> <p><b>ケアの質の均一化</b></p> <p>➤ 個々のスタッフが持つ終末期支援の経験や知見を組織全体で共有する仕組みを構築し、どのスタッフでも質の高いケアが提供できるようボトムアップを図る。</p> <p><b>専門性のさらなる向上</b></p> <p>➤ ターミナルケアを事業所の重要な強みとして再認識し、看取りや家族支援に関する研修を継続的に実施することで、職員の知識・スキルを常にアップデートする。</p>
--	---	--

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおそ できて いる	あまりで きてい ない	全く できて ない		
<b>I 事業運営の評価 [適切な事業運営]</b>							
<b>(1) 理念等の明確化</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢	7	20	1		・主治医とも密に連携し、利用者の状態変化をいち早く察知してサービス調整を行うことで、不必要な入院を防ぎ、地域全体で支える一翼を担っている。	<p>✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」</p> <p>✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおそできている」もしくは「あまりできていない」</p> <p>✓ 独自の理念等が明確化されてい</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	献」を含む、独自の理念等を掲げている						ない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	3	22	3		<p>・ご家族の急な体調不良や介護負担増の際、即座に『通い』から『泊まり』へ切り替えるなど、個別の状況に即した対応が、在宅生活の継続と家族の安心に直結していると思います。</p>	<p>✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します</p> <p>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</p>
<b>(2) 人材の育成</b>							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	2	14	9	3	<p>・業務時間が取れないのが理由かと思いますが、個人別のチェックリスト等は作成されていますでしょうか</p> <p>・難しいと思う→キャリアラダーをもとに定期面談を進めていく。</p>	<p>✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します</p> <p>✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」</p> <p>✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	おおよ そで きてい る	あまり で きてい ない	全く で きてい ない		
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	5	20	3		・対面研修・オンライン研修、eラーニングを利用され、夜勤者含め、参加を確保していると思う。	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・組織としては色々と取り込まれていると思う ・事業所内研修の参加 ・外部研修の周知					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	7	21			・職種間でのコミュニケーションがよく取れていることが自己評価に表れていると思います ・おおよそできている	✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・申し送り、カンファレンスで情報共有している ・定期的なカンファレンスの開催 ・よくコミュニケーションとれており、情報共有できている					
<b>(3) 組織体制の構築</b>							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提	6	16	6		・助言に関して、反映されており、地域への「看多機とは」	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
	供等に反映させている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・内容は書面で伝わるのみ ・参加していないので具体的に不明 議事録は確認しているが実施したのかわからない				の周知など実施された。 今後、地域行事への参加等、 交流の質を深める必要がある のではないか	を評価します
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	7	20	1		・大変な中とは思いますが一人一人が働きやすく心理的安全性の高い組織を目指して継続して取組みを続けていって欲しいと思います ・おおよそできている ・人手不足	✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
<b>(4) 情報提供・共有のための基盤整備</b>							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、	8	18	2		・常に伝言機能を通し情報共有できている。	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・申し送り、ファイルに記入、出勤時に確認している ・以前より水分表の変更更新が出来るようになった ・充分できているとはいえない					2つの視点から、充足度を評価します
<b>(5) 安全管理の徹底</b>							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	5	22	1		・インシデント・アクシデントの共有など、しっかり取組みされていると感じています	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・毎年研修が行われているが、実際に何か起きた時、自己判断されるケースがある					
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	8	19	1		・BCP研修・消防訓練を定期的実施している ・大雨警戒レベル発令時の対応マニュアルを新たに策定し、職員へ周知した。 ・概ねできているが、実際の緊急場面での実践について継続的な訓練が必要。	✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>II サービス提供等の評価</b>							
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>							
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	6	19	3		・通い・泊まり・訪問を組み合わせる看多機の特徴を活かし、継続的な状況把握を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します</li> <li>✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります</li> </ul>
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	4	17	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的なカンファレンスを通じて、介護職・看護職それぞれの視点からのアセスメント結果を共有している</li> <li>・介護職によるアセスメントの充実が今後の課題として認識されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいとい</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
							えます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	5	23			・利用者本人および家族の意向・希望を把握し、目標達成に向けた個別計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます</li> </ul>
		[具体的な状況・取組内容]					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	6	22			・利用者の有する能力を最大限に活かし多支援内容になっていると思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</li> </ul>
		[具体的な状況・取組内容]					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	おおよそ でき てい る	あまりで きてい ない	全く でき てい ない		
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	6	22			・医療ニーズの高い利用者に対し、急変時の対応方針を事前に計画に組み込んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です</li> </ul>
② 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	6	20	2		・申し送りや各種記録ツールを活用し、変化の見落としを防ぐ体制を整えている	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します</li> </ul>
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的	6	20	2		・家族状況により連泊が長期化するケースについても、訪問を通じて家族状況の変化を確認している	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します</li> <li>✓ 訪問によるケアの提供は、家族等</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	に把握している						を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	9	19			・利用者の状態変化について、主治医等の事業所内外の関係多職種と専用ツールを通じて情報共有を行っている	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容]					
<b>(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</b>							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	6	19	3		・業務状況に応じた柔軟な役割分担により、効果的なサービス提供ができています	✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
		[具体的な状況・取組内容]					
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情	8	19	1		・良好なチームワークが構築されている	✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u>					足度を評価します
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	7	20	1		・看護職から介護職に対し、申し送り、カンファレンスや日常業務を通じて情報提供・提案を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します</li> <li>✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます</li> </ul>
<b>(4)利用者等との情報及び意識の共有</b>							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	4	22	1	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します</li> </ul>
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	4	22	1	1	・丁寧な説明と記録を継続している	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u>					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	6	18	3	1	・経管栄養・喀痰吸引など医療ニーズの高い利用者の家族に対し、手順書を作成し、個別に対応している	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u>					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	6	21	1		・終末期支援においては、本人・家族の意向を丁寧に確認しながら支援を進めている	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	おおよ そ でき てい る	あまり で きて いな い	全く で きて いな い		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている	7	18	2	1	・主治医等と連携し、緊急時・状態悪化時の方針を事前に共有している	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容]					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	8	17	2	1	・看護職を中心に、家族の心情に寄り添った継続的な説明と記録を行っている	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		[具体的な状況・取組内容]					
		・遠方にいる家族とはメールなどを通じて、丁寧に説明している。					
<b>2. 多機関・多職種との連携</b>							
<b>(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供</b>							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	8	17	2	1	・病院・施設等との連携・情報共有により、切れ目のないケアを提供している	✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係
		[具体的な状況・取組内容]					
		・退院・退所前カンファレンスに参加し、退院後の療養生活がスムーズに移行でき					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		るよう支援している。					る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	8	17	2	1	・すべての利用者について、緊急時の対応方針を本人・家族、主治医等と事前に相談・共有している	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します</li> <li>✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です</li> </ul>
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	9	16	2	1	・主治医等との事前の方針共有により、緊急時に即座に対応できる体制が整っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します</li> </ul>
<b>(2) 多職種との連携体制の構築</b>							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	おおよ そ でき て い る	あ ま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	9	13	4	2	・毎回共有していただいている事例は分かりやすいです。ご家族のお話が聞けたことは、とても良かったです（菅井）	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します</li> <li>✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」</li> <li>✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です</li> </ul>
<b>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画</b>							
<b>(1) 地域への積極的な情報発信及び提案</b>							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができ るような方法での情報発信が、迅速に行われている	14	12	2		・よくできている	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	3	13	10	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議を通じて地域関係者に事業所の取り組みを紹介・共有している</li> <li>・地域向けの説明・啓発活動については、引き続き取り組みを進めていく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です</li> <li>✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。</li> <li>✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます</li> </ul>
<b>(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	6	13	6	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看多機の指定訪問看護事業所として、地域拠点としての機能を発揮している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください</li> <li>✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	おおよ そ でき て い る	あまり で き て い な い	全 く で き て い な い		
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	17	11			<ul style="list-style-type: none"> <li>・よくできている</li> <li>・安心です</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・介護職員も研修を受け、積極的に受け入れしている。					
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	7	16	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>・おおよそできている</li> <li>・ありがとうございます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u>					
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	15	13			<ul style="list-style-type: none"> <li>・よくできている</li> <li>・安心です</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よく</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	おおよそ でき て い る	あまりで きて い な い	全く でき て い な い		
<b>(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画</b>							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	6	16	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政としてもしっかり PR していく必要があると感じているところ</li> <li>・おおよそできている</li> <li>・あまり出来ていないとほどのような点か相談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます</li> <li>✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」</li> </ul>
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	8	20			<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療ニーズの高い利用者・終末期の利用者を積極的に受け入れ、地域における在宅療養支援の核としての役割を果たしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます</li> <li>✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	おおよそ でき て い る	あまりで きて い な い	全く でき て い な い		
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている	3	16	8	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療ニーズの高い利用者の在宅療養を支えるための課題を関係機関と共有している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます</li> <li>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</li> </ul>
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている	2	17	8	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おおよそできている</li> <li>・40・41については、福祉保健センターや地域包括支援センターとの課題を共有と連携が必要と考えます</li> <li>・スタッフの関係が仕方ない、アイデアを募集してはどうか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整え</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	およ そ でき て い る	あ ま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
							<p>ていくなどの役割も期待されま す</p> <p>✓ そのような取組をしたことがな い場合は、「全くできていない」</p>

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
<b>Ⅲ 結果評価</b>				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ( 10 ) 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている ( 17 ) 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている ( 1 ) 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u>	・計画目標の評価が低い 原因は何か、目標が高すぎるか	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ( 14 ) 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている ( 14 ) 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u>	・よくできている ・安心感はとともあり、評価がもっと良くて良いかと思う	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ( 15 ) 2. 利用者の2/3くらいについて、達成さ	・よくできている	✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービス

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	<p>利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている</p>	<p>れている ( 13 )</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>5. 看取りの希望者はいない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p>		<p>の提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内(通い・泊まり)での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>